

令和2年度第1回第2次山県市総合計画審議会
第14回山県市まち・ひと・しごと創生会議 会議録（要点筆記）

【日時】 令和2年10月7日（水）13:30～15:10
【場所】 山県市役所3階大会議室
【出席】 山県市総合計画審議会委員
会長 竹内 治彦 岐阜協立大学 学長
委員 田上 隆 市自治会連合会代表
宇野 睦 市商工会 会長
川田八重子 山県市教育委員会
石神 真 議会代表（総務産業建設委員長）
寺町 祥江 議会代表（厚生文教委員長）
佐野恵津子 山県市農業委員会（市民代表）

まち・ひと・しごと創生会議委員

会長 竹内 治彦 岐阜協立大学 学長
委員 黒見 敏丈 岐阜女子大学 教授
田上 隆 市自治会連合会代表
宇野 睦 市商工会 会長
堀尾 弘之 岐北厚生病院 事務局長
福地 克也 JA岐阜 高富支店長
松原 茂 市校長会代表
加納 康成 代理出席（平下友美）十六銀行高富支店長
大竹 裕幸 大垣共立銀行高富支店長
伊藤 博之 岐阜信用金庫高富支店長
形田 怜央菜 中日新聞社 記者
高橋 友基 岐阜新聞社 本巣支局長
小倉 誠 岐阜公共職業安定所 雇用開発部長
相宮 一夫 代理出席（宮部敬輔）岐阜乗合自動車（株）営業管理部部長
早川 徹 株式会社水生活製作所 代表取締役社長
今瀬 義幸 元岐阜県職員
宇野 邦朗 副市長

事務局

奥田英彦 理事兼企画財政課長
武藤達也 企画財政課主幹
棚村湧太 企画財政課主事

令和元年度地方創生推進交付金実施事業課

山本文郎 まちづくり・企業支援課
服部裕司 まちづくり・企業支援課
矢島睦美 生涯学習課

【欠席】 丹羽 英之 市社会福祉協議会 会長
尾関 律子 NPOどんぐり会（市民代表）
木村 麻理 社会保険労務士

【次第】 1. 総合計画審議会会長及び副会長の選任について
2. あいさつ
3. 審議事項
（1）令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・検証について
（2）令和元年度地方創生推進交付金事業のKPI評価について
（3）令和元年度前期実施計画目標値達成状況一覧について
（4）令和2年度総合計画実施計画一覧について
（5）令和2年度地方創生推進交付金事業の概要について
4. その他

【資料】 資料1 令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・検証について（要約板）
資料2 地方創生推進交付金事業の評価・検証について
資料3 令和元年度地方創生交付金事業のKPI評価
資料4 令和元年度前期実施計画目標値達成状況一覧
別紙5 令和2年総合計画実施計画一覧
資料6 令和2年度地方創生交付金事業の概要

【追加資料】 資料 次第
資料 山口市人口ビジョン改訂版・総合計画等要約版

■ 山口市総合計画審議会委員9名を新たに委嘱
山口市まち・ひと・しごと創生会議では、人事異動、組織改編等により新たに委員6人を委嘱
欠席委員の報告

■ 山口市総合計画審議会会長及び副会長の選任について
○事務局 山口市総合計画審議会会長及び副会長の選任については、山口市総合計画審議

会条例第5条第1項により互選により定めると規定している。山県市総合計画審議会会長及び副会長の選任について、何かご意見があるか。

○委員 事務局一任

○事務局 委員から事務局一任の声が挙がりましたので、事務局一任でよろしいか。

○委員 異議なし。

○事務局 会長を竹内治彦岐阜協立大学学長、副会長を丹羽英之市社会福祉協議会会長とする。

■ 会長あいさつ

○会長 昨年度末に総合計画後期計画を策定。市長への答申を行った。ちょうどコロナ対策を実施している時期であり、現在はようやく収束の兆しがある。

総合計画には、基本理念、基本目標が定められており、今年度から4年間の計画として策定した。本計画は、特に人口の問題、子育て支援、市の認知度の向上、市内企業の支援を重点に置いている。

今回の会議では、昨年度の事業の評価、今年度の事業への意見をちょうだいする。

山県市総合計画審議会について、出席委員が9名の内7名であり、過半数に達しているため、山県市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により、開催要件を満たしている。

また、山県市まち・ひと・しごと創生会議について、出席委員が19名の内17名であり、山県市まち・ひと・しごと創生会議設置要綱第7条第2項の規定により、開催要件を満たしている。

【議事】

○会長 審議事項について、事務局に説明を求めます。

事務局 令和元年度地方創生推進交付金事業の評価・検証について説明

○会長 地方創生交付金事業について、まち・ひと・しごと創生会議で協議しなければならない。非常に詳細に説明していただいた。これを詳細に議論することは時間的に難しいため、大きな観点のみを議論したい。

大河ドラマに関する事業について、今年度で終了するため、事業の継続性がない。大河ドラマがなくなって、どういう形で事業を引き継いでいくのか。

また、目標設定が交流人口になっているが、大河ドラマが終われば、交流人口が減るのは当たり前であるため、もう少し設定については、工夫する必要があったのではないか。その他大きな観点からの意見はあるか。

○委員 A 水栓バルブ製造業リノベーション事業について、事業完了額が事業計画額に比べ、少なくなっている。他の事業では、こういったケースがないがなぜ事業完了額と事業計画額に差ができたのか。

事務局 設備に対する補助金額が当初計画より少なかったためだと思われる。

○委員 A 14社の申請金額が当初予定より少なかったという理解でよろしいか。

事務局 問題なし。

○委員 A 2019年11月に市長への報告会を実施した。各社生産性の向上に繋がったということで非常にありがたかった。

○会長 その他意見あるか。

○委員 B 水栓バルブ、シティプロモーション、空き家対策と別々で予算化して事業を実施しているが、中には働き方改革、移住定住と言った文言がいくつか見られた。例えば、地元企業へ、こういう場所からであれば働くことができるかなど、方向性を伺いながら、地元企業へ近くから通うことができる空き家に移住定住してもらうなど、企業と移住定住をコラボさせながら実施する事業が現在ないため、今後実施していけばよいのでは。

大河ドラマの件について、先ほど単発ではだめと言うことであったが、何を残していけば継続的に集客していけるか考えたときに、例えば、大桑城の下に城下町を作るなど、新たに予算化してでも事業を実施していく必要があるのでは。

○会長 一つ一つの事業として、事業を評価しているため、全体として何を目指していくかを検討して欲しい。

○委員 C 全体として、外への情報発信と市内の郷土愛を深めると言った文言が多く出ており、課題の項目でも多く出てきている。外向けの事業を実施していれば、市民の郷土愛も深まると思うが、年代を絞った事業や対象者を絞った事業も実施していく必要があるのでは。現在の事業は、対象者や目的が似通っているため、これだけのお金を使うのであればもう少し特徴のある施策を実施

していく方が効果が出るのではないかと思う。

もう一点、イベントを実施して終わり、冊子を配布して終わりにして欲しくない。小学校へ配布した冊子を副教材として使用しているようだが、市民が受けるだけでは、それを何度も繰り返すだけになってしまう。それを使って市の中で何ができるか、事業を検討して欲しい。

○会長 イベントなど単発の事業で終わるのではなく、継続的に事業を実施する必要があると言う意見かと思う。

○委員 A 資料3について、水栓バルブ製造業リノベーション事業のKPI3について、計測不能となっている。大きなお金を使っている事業であるのに、これだとまずいのではないか。なぜ計測不能なのか。また、基準値が3,440千円であるが、目標値が非常に少ない値であるため、整合がとれていないのではないか。

事務局 KPI基準値については、RESASの数値を基にして、算出している。今年度の数値が計測不明であるのは、市のセキュリティの関係によりRESASを立ち上げることができなくなったため。

基準値については、1人あたりの年間所得である。目標値数値の見方として、平成30年度は20千円、令和元年には60千円といった形で、1人あたりの年間所得額の増額目標値を記載している。

○委員 A 3,440千円は年間所得額、20千円、60千円は年間所得額の増額目標値となる。RESASが使えなくなったのはよく分かったが、所得額の数値は、どの会社もデータとしてもっていると思われるため、集めてでも数値を計測するべき。

○会長 資料1を中心に説明されたが、承認すべきは資料2であるため、資料2に基づいて承認することとする。

次に資料3の説明をお願いしたい。

事務局 令和元年度地方創生推進交付金事業のKPI評価について説明

○会長 各委員、手元の資料で各自評価の記入をしていただきたい。

次に資料4の説明をお願いしたい。

事務局 資料4 令和元年度前期実施計画目標達成状況一覧及び資料5 令和2年度総合計画等実施計画一覧について併せて説明。

続けて、資料6 令和2年度地方創生推進交付金事業の概要について説明。

- 会長 全体として非常にわかりにくい。まず始めに、資料6を先に議論すべき。また、資料によって様式が違う。「ほどよい田舎」事業については、いくつかの事業が重なっており、水栓バルブ事業については、単独事業、山口市超ローカルイノベーション事業については、2,500万円の事業ということは分かったが、記載内容、方法が違うため、どのように理解すればよいか分からない。もう少し整理していただけないか。
- 事務局 水栓バルブ事業については、前年度の水栓バルブ事業を発展させた事業であり、得られた知見、報告等を踏まえて、新たに事業を再構築し、交付金の申請を実施した事業である。
「ほどよい田舎」事業について、移住定住促進、空き家活用の事業を併せて実施している。また、認知度向上については、山県ベースを活用したシティプロモーション事業を実施する予定であり、昨年度事業を深化させた事業である。
超ローカルイノベーションは、昨年度実施していない新しい事業。中小企業の生産の効率化、雇用継続、経営効率化、販路拡大などに資する補助金を交付事業である。
- 会長 昨年度の事業報告だと細かい事業ごとに記載があるのに、なぜ今年度の事業についての説明では、3つの事業の概要での説明となるのか。
- 事務局 資料1, 2の様式による事業数となると、水栓バルブで1つ、「ほどよい田舎」で3つ、超ローカルイノベーションでは1つで計5つの事業から構築される。
- 会長 様式が途中で変わってしまうため、評価が非常に難しい。上手に資料の作成をして欲しい。その他質問、意見はあるか。
- 委員D 協議順は、令和元年度推進交付金の評価、次に令和2年度推進交付金推進事業とするべき。令和元年度推進交付金事業を発展した事業という説明だったが、どういう反省を基にどういう評価をもって、また、どういう方向性から、この3つの事業を実施することになったのかが分からない。
令和元年度から令和2年度事業のつながりが分かる説明にしていきたい。もしかしたら、総合計画の話をしたのは、総合計画の事業の中でこういう事業に力を入れたいという話が合って推進交付金の話につながるかとも考えたが、そうではなかった。事業のつながりが分からないので、3つの事業がよいかどうかやKPIの評価への意見をすることができない。もう一度整理して資料を提示していただきたい。

○会長

会議をもう一度開催することはないと思うが、一度整理して再度送付していただきたい。わかりやすく資料を整理して欲しい。

私としては、本協議にて、昨年度事業の評価を実施する必要はあり、ただ、各委員に点数表が配られて、それに点数を入れる、点数を刻むといった評価は不要であろうと思われる。様々な場所で創生会議を実施しているが、会議の委員に評価してくれといったことは一度もない。国の求めているものはそこではないと思われるため、評価に力点を置くのではなく、シンプルに昨年度事業の取り組み及び成果を記載し、その後反省及び評価を行う。その成果、反省及び評価結果を基に今年度はここを強化して事業を実施するといった説明でよい。こうしたシンプルな形で資料を作っていただきたい。

水栓バルブの事業だけは、はっきりと事業が絞られているため、対比すれば事業内容を把握できると思う。しかし、その他の事業は追うことができない。また、先ほど意見が合った大河関連の事業について、150万円、300万円の事業と多く実施したが、今年度継続しているように見えない。こういうことをやると大河のイベントを実施しただけなのかということになる。こうしたことは、非常によろしくないため、昨年度事業に対して、今年度事業はどういう考え方で事業計画をしたかしっかりと整理して、資料を作成して欲しい。これらの事業はすでに国の申請は通っていると思われるため、よかったとは思うため、進めていただければ。

資料2は、金額や細かい事業内容などしっかりと記載があるが、資料6は、記載していないなど比較して論ずることができないため、整理して資料を作成して欲しい。

○会長

続いて、総合計画については、もう少ししっかりと協議する必要があるのではないかと。資料をあとで読んでくださるのではなく、ここはできていなければならないが、できていないなどの評価があつて然るべきだと思うが、そういった点は何かあるか。

事務局

総合計画の一覧には、達成できた達成できなかったの点が区分されていますので、こちらについては、グラフ化するなどしてできていない事業をまとめた上で資料として送付する。

○会長

総合計画は、様々な点を網羅することのため、事業実施事項が多岐にわたる。全体の何%達成できたなどは、意味がない。重点的に実施すべきものがあると思うため、この施策は達成しなければならないが実施されていない、達成度が低いなどを見ていきたい。こうした観点から市として分析して欲しい。分析後、やっぱり改善していきたいためこの事業にするなどの説明はあつた方がよい。是認する必要はないが、ここは重点的にやるといった事業を決め

ていただきたい。その中で、委員の皆様にご意見を伺って、ここは大事だができていないなどのご質問、ご意見を言えれば総合計画の通常のあり方となるのではないかと。

市の考えが現段階で特になければ、委員の皆様で何か意見はないかと。

○委員 B

後期計画の達成状況とKPIが示されているが、後期計画を作られる際にSDGsについて、記載するかしないかの議論がされたと思う。もし、できないのであれば入れない方がよいとの意見が合ったが、事務局がどうしても記載したいということで記載したが、評価をする際に、SDGsの観点からの評価や見方がでてこないが、今後もこのような形での評価となるのか

○事務局

SDGsを加味した評価について、後期計画の方に大きなテーマごとに分けしている。17のターゲット中どの項目が該当しているかを記載しており、KPIの数値により見るとSDGsを達成できたかどうか判断できると考えている。

○会長

事業ごとではなく、全体で判断する必要があると思う。そのため、SDGsを掲げた部分については、達成度がどうかと言った評価はしていく必要があるかと思う。SDGsの評価についても今後どのようにまとめていくかを工夫していく必要がある。

事務局

承知しました。

○会長

膨大な資料になるため、資料を読んでいただいて、達成状況がどうなんだといった点があれば、ご質問、ご意見を事務局までよろしく申し上げます。審議事項については以上になります。その他事項は何かあるか。

事務局

なし。

○会長

本日の会議は以上とします。

―― 閉会 15:10 ―――